

観想考

残された桜・・・塚部 彰



私は建築設計の業務とともに造園設計も携わっており、樹木医としての活動もしております。読者の皆様も建物を設計するときに敷地にある愛着ある木をいかに残すか苦慮することは日常のこととおもいます。

そこで私が平成21年秋に関わった桜、ソメイヨシノの保存計画をご紹介します。東京都樹木医の団体であるNPO東京樹木医プロジェクトが建築設計事務所より委託されたもので、東京都中央区立中央小学校の建替えに伴い学校関係者、周辺住民より永年親しまれているソメイヨシノ4本の現況診断及び保存計画への検討を行なったものです。ソメイヨシノは数多い桜の中でも我々が最も親しんでいる品種で江戸時代末期に染井村今の東京都駒込辺りの染井村の植木屋が広めたもので「染井吉野」は販売戦略上当時



からブランド力のあった奈良吉野の冠をつけたものです。

既存ソメイヨシノは、樹齢想定40～50年程度で

小学校校庭南端の公道沿いに列植されており、新計画の小学校と共に3階建の保育園が約5mで近接して計画され、桜への影響が懸念されたものです。桜への生育阻害影響は、工事に伴う根の切断、園児の遊び場による土の踏み固め、建物が近接することへの枝伸長阻害などです。私もかつてそうでしたが、一般の人は木を観る時は地上から上のみに関心があります。きれいな花を咲かせ豊富な葉をつける病気に強い木の源は地中の根にあります。根の役割は風で倒れないよう踏ん張ることと、水分、養分、ホルモン等を吸収し枝先まで送り届けることにあります。地上の枝張りと同量の世界が目に見えない地中でささえているのです。そのためには土中に適度な空気と水分が必要でこの点が重要なポイントとなります。

4本の内3本は移植可能、1本は幹に直径20cm程度のキノコが発生し、幹割れが生じ空洞開口も直径の約70%に達する大きなもので移植不適正と診断しました。対策として建築設計事務所の希望は移植し樹木植え込み高さを現状より約60cm下げたものですが、他の案として地盤現況高さのままに残すことを提案しました。現在工事が進行しておりますが地盤現況高さのままの案が採用され2本のサクラが根回しされ残されております。今春元気に花が咲き周辺住民、学校関係者の皆さまに喜んでいただけることを願っております。

里山と震災復興雑感・・・福島一三



先日TVで「里山の風景」が放映されてきました。

日本古来の茅葺き屋根等伝統的な民家や周辺の田園&畦道&小川&山裾の雑木林&水車等懐かしい画面に昨年古希を過ぎた初老の爺じいが多少ウルルン状態？忘れかけていた人が住む環境は、これだナア～と、素直に思いました。私自身半世紀近くゼネコン設計部で多種多様な建物を設計してきましたが建物単体がほとんど、周辺環境計画と云ってもせいぜ敷地内で商業&経済中心の道具？として（それはそれなりに意味があったと思いますが）商業活動も生活の一部ですが人間生活を無視？に近い、周辺との調和&街のつながりに及ぼす影響等どうだったのか？疑問です。

3/11から満一年経過、今だ瓦礫の処分が5%程度被災地の市側単独処分だと180年掛る状態だそうです。復興の槌音は小さい原発事故が無ければもっと早く出来たのではと思うのは私だけでしょうか？それにしても人間の

無力さ自然の恐ろしさを平和ボケ&自然を甘くみた人間に対して自然をコントロールなどできないぞ！警告に私は思いました。

復興に向け数々のプランが提示され検討されていると聞きます。防災に強い街づくりは当然ですが今まで以上に自然との調和&共生「里山の風景」をTV見て先人たちが少しずつ改良を加え伝承して来た環境に対する思いを今一度その精神を理解し再構築され復興プランに取り入れてはどうか？「里山環境の要素」の一つに水車などは水の力を利用した素晴らしいエネルギー源思いますし、他にも今まで以上に風&地熱&太陽等エリア内地産地消で生活できる都市環境が望まれているのではないだろうか？我々設計者ももっと積極的に環境とのかかわり持ち時とともに変化可能な街づくり手法の一つとして「里山環境」は如何でしょうか？

やっと復興に向けてスタートしたばかり 私も機会あれば「里山～」を引っさげ「いざ東北」で馳せ参じるつもりです。（生涯現役だア～）